

ASIRU - アシル -

令和5年6月13日発行 第6号



初任段階教員（1年次）オンライン交流会①

5月9日、10日、12日に、初任段階教員（1年次）を対象としたオンライン交流会を実施しました。交流会では、日常業務の中で感じている疑問や困っていることについて、自分なりの解決策を話したり、他校教諭の取組に耳を傾け、新たな視点を得たりする参加者の姿や相互に親睦を深める様子が見られました。本交流会で得たネットワークを大切に、互いに励まし合い、切磋琢磨していってほしいと思います。

本号では、交流の中で見られた、初任段階教員（1年次）の取組のよさや大切にしてほしい視点、今後の業務推進に係るポイントなどを紹介します。

学習指導等に関わる交流の様子から…

授業中の指示や発問の意図がなかなか上手く伝わらなくて困っています。



教師が話すことを端的にして、子どもが話す時間を増やしたいですね。



どうしても、教師が説明をしている時間が長くなってしまふなあと感じています。



理解が進んでいる子が話す場面が多くなりがちで、みんなが参加する授業になりにくいんです。

そうですね。思考を促す場面でも、理解が進んでいる子は退屈しがちな一方、苦手な子は活動を進めにくかったり、手が止まってしまうたりして、参加が難しい状態になりがちです。個別に対応するように配慮していますが。



交流から見た先生方の取組～次のような発言が見られました

◆得意や苦手、取組を進めるスピードの違いなど、子どもの個性を把握した上で、全ての子どもが目標を達成できるよう努力している。

よさや可能性に着目した取組

◆子どもが自分の考えを表現することや、協働を通してよりよい学びを生み出すことができるよう授業づくりをしている。



学習者中心の指導観



今後の学習指導に向けて

★ゴールから授業を構想

・学習指導要領を基に本時の目標を設定し、子どもが資質・能力を身に付けている姿を具体的にイメージします。

「理解する」「考える」って、どういう姿かな？何を説明できたらいいのかな？…想定する楽しみましょう！

★主体的な学習が促される場面の設定

・子どもにゆだね、自己選択・自己決定する時間を保障し、自分なりの考え方や立場をもち、発揮できるようにします。

「～したい」は、きっと「話したい」につながります。ぜひそんな子どもの姿を！



<情報提供>

上記内容について、「もっと知りたい、深めたい」とお考えの方は、「令和5年度小学校・中学校教育課程改善の手引（北海道教育庁学校教育局義務教育課）」「生徒指導提要（令和4年12月文部科学省）」をご覧ください。



令和5年度
「教育課程改善の手引」



生徒指導提要